

213

二

全

日
案
引
草
全

日光山諸所案内手引草

抑日光山々々野國都安敷あり神儀等々元
年勝道上人開心あり大已貴者勸誘して是を
日光之社と稱し則新宮跡尾本宮是より
其後弘法大師慈覺大師登ふ〜〜〜
緒堂社〜〜〜建立奉り又慈眼大師中興
開山元和の以濟宮所修造あり〜〜其結構
傳へ〜〜〜跡紫花乃所山となり徳人
くんと由まるとあり巨細あり事 抑日光
名跡徳といふ書けり事知り〜〜あり
畧一唯系清乃明路の〜〜



二番子の所系礼々より汲所あり右の方山神木不獲テ
堂きて所廣門元右所五るき所相殿以所法信もま
能人相し其るすたて所系中々うあると中く種業
法人うじそれより中向て仁王所門不出右ののこ
形新宮多場といふは通う右の上不相通とて何ぞ
少一行く新宮多居所額ハ敷一寺正位日光大権現
所座より宮極所築ありそれより二佛堂是ハ日光
之社乃所本地仏より山の大うらん方よりひて
新之天権現日光之社の寺あり所本社法相殿より未社
神室より一甫の方には別不安書院と肉より多分の文殊
有り新宮あり西一竹く船の尾乃より板以所甫乃
くく少くはくは新堂於朝日の島を納む日ありひ
法相堂是と云きといふその向ひを通う坂上小急服大
所堂ありび不法代く所座主の所形ありふれと小法別當
兵馬院叔二書西小法番所むくふ仁王所門乃其天安
四年四月廿日の所系屋あり系信なるありはせらるる

あるとくは法相堂は地内小法別不祐光院小の坂上小表門
形別階の尾乃あり是より坂中小眼洗茶師書水あり
能人眼を洗ふ乃の尤ふありと上茶師堂よりあり
法相堂は法相人休是はく小役の行共堂乃右の方法番所
それ乃坂の下に助遠橋ありよりより亦使を極はせし行
○山五社○不動堂尤くよ○そうあると云文石坂とのあり
法別不日光妻の乃く乃石の書唐城ハ至門法郎女神中宮
法法大師乃法集之相殿所本社利階尾大権現日光之社
の中宮方より神室本社ありと為法じり小三本松一何り是
之社の神基之子孫名衆が何酒氣ありと外未社法より下
筋遠橋小度より道小板表松柄漸門法行の碑是ハ
園より所法のはるあり○尤りの方はより小法方より
法相天林の社ありとふりぬる外山毘沙門天兼小念山
は殿あり所座の文より未社乃是と本山坊舎は思共堂
又少くはく本宮の境内ハ四率統寺務乃上人乃寺也



妙法寺

大御所

大御所

大御所

大御所

大御所

大御所

代目御

行奉御

大御所

大御所

大御所

大御所

南

大御所



三浦の庄

三本杖

布別

七

七

三本杖

如翠山

久留

大日堂

子

一本杖

三本杖

三本杖

山

三本杖

別

三本杖

三本杖

王助

三本杖

中

三本杖

三本杖

三本杖

三本杖

三本杖

三本杖



三ヶ塔の本社刻年未だ推定
 日光二社の才之あり并殿末社
 神室ありそれより香居と出て
 小別ありは所と光りへり刻
 神橋あり此之は一月の逗留
 より相足なる也
 右の外わんまん感毛と云ふ木の
 多野と云ふ敏光を敏光控現

